

千葉市感染症発生動向調査情報

2019年 第43週 (10/21-10/27) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		43週	42週	41週	40週
上段: 患者数 下段: 定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	27	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千葉 市					千葉県
		注意報	10/21-10/27	10/14-10/20	10/7-10/13	9/30-10/6	10/14-10/20
			43週	42週	41週	40週	42週
小児科	RSウイルス感染症		3 0.17	4 0.22	8 0.44	4 0.22	41 0.31
	咽頭結膜熱	○	12 0.67	0 0.00	1 0.06	2 0.11	34 0.26
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	32 1.78	26 1.44	19 1.06	24 1.33	286 2.18
	感染性胃腸炎		54 3.00	50 2.78	45 2.50	61 3.39	306 2.34
	水痘		1 0.06	2 0.11	0 0.00	0 0.00	22 0.17
	手足口病		23 1.28	30 1.67	28 1.56	42 2.33	204 1.56
	伝染性紅斑		8 0.44	4 0.22	9 0.50	5 0.28	35 0.27
	突発性発しん		7 0.39	11 0.61	9 0.50	11 0.61	38 0.29
	ヘルパンギーナ		10 0.56	5 0.28	9 0.50	14 0.78	63 0.48
	流行性耳下腺炎		2 0.11	1 0.06	1 0.06	1 0.06	11 0.08
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	○	23 0.82	8 0.29	10 0.37	17 0.61	96 0.46
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		1 0.20	1 0.20	7 1.40	8 1.60	19 0.56
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	2 2.00	0 0.00	8 0.89
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★: 流行中 ★: やや流行中 ◎: 増加 ○: やや増加 →: 変化なし ↓: やや減少 ↓↓: 減少

2 全数報告対象疾患(5件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	90歳代	病原体等の検出等	百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出
A型肝炎	女性	40歳代	血清IgM抗体の検出	百日咳	女性	10歳代	病原体遺伝子の検出
劇症型溶血性 レンサ球菌感染症	男性	40歳代	病原体の分離・同定	-	-	-	-

・第43週は、結核1件(138)、A型肝炎1件(6)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1件(7)、百日咳2件(128)の報告があった。

※ ()内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第43週のコメント

＜咽頭結膜熱＞前週より急増し0.67となった。過去10年の同時期と比べると最多。

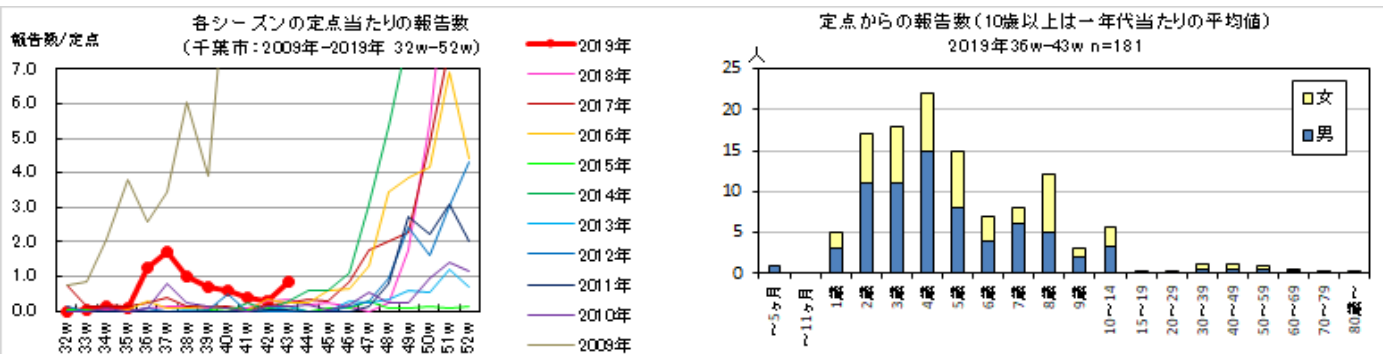
＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞前週より増加し1.78となった。過去10年の同時期と比べると多め。

＜インフルエンザ＞前週より増加に転じ0.82となった。過去10年の同時期と比べると最多。

■ トピック ■

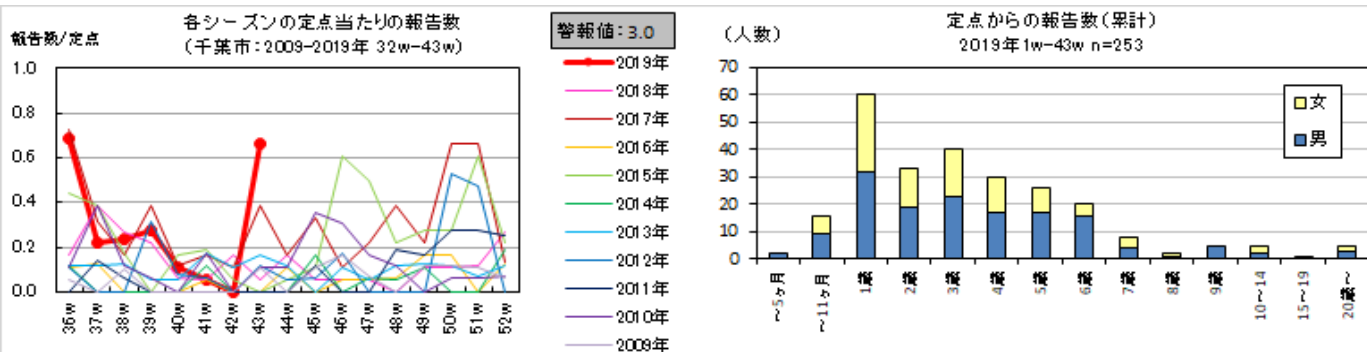
<インフルエンザ>

全国レベルの第42週の定点当たりの報告数は0.72となり、過去10年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では沖縄県、鹿児島県、佐賀県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.46で、全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市では第36週に流行開始の目安とされている1.00を上回り、第37週にピークを迎えた後連続して減少していましたが、第43週は増加に転じ0.82となり1.00に近づきました。過去10年の同時期と比べると、2009年のパンデミックを除いて最多のままととなっています。区別の発生状況は、若葉区(1.25/定点)で最多で、同区の1歳、2歳、7歳、8歳及び40歳代で発生報告がありました。今シーズンである2019年第36週から第43週までの累積報告数は181件で、性別では男性が55.2%(100名)、女性が44.8%(81名)となっており、年齢階級別の一年代当たりでは4歳(12.1%:22名)、3歳(9.9%:18名)、2歳(9.4%:17名)の順で多くなっており、20歳未満は全体の75.7%、10歳未満は全体の59.7%となっています。



<咽頭結膜熱>

全国レベルの第42週の定点当たりの報告数は0.34となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では鳥取県、長崎県、徳島県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.26で、全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の第43週は前週より急増し0.67となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況は、複数の区で増加しており、花見川区(1.5/定点)で最多で、同区の1歳、3歳及び7歳で発生報告がありました。2019年第1週から第43週までの累積報告数は253件で、性別では男性が59.3%(150名)、女性が40.7%(103名)となっており、年齢階級別では1歳(23.7%:60名)、3歳(15.8%:40名)、2歳(13.0%:33名)の順で多くなっています。



<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第42週の定点当たりの報告数は1.54で、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では山形県、宮城県、福岡県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は2.18で、全国レベルと比べると多くなっています。千葉市の第43週は、前週より増加して1.78となり、過去10年の同時期と比べると多めのままととなっています。区別の発生状況は、若葉区(4.5/定点)で最多で、同区の4歳、7歳及び10歳代前半で発生報告がありました。今シーズンである2019年第36週から第43週までの累積報告数は204件で、性別では男性が55.9%(114名)、女性が44.1%(90名)となっており、年齢階級別では6歳(17.6%:36名)、7歳(15.2%:31名)、5歳(13.7%:28名)の順で多くなっています。

